

神楽と太鼓と子ども達

講師 蒲江竹野浦神楽保存会

増野 敏彦 氏

・プロフィール:

昭和11年生まれ。76歳。8人兄弟の5番目。学校に上がる前は、(父親が椎茸栽培をしていた関係で)宮崎県綾町で育てられる。国民学校1年生の時から、佐伯市蒲江竹野浦河内に在住。



炭山、材木山と山仕事に従事。23歳の時17名を連れて、日出生台の県営林の切り出し等。昭和44年蒲江役場就職、平成9年退職。現在は、釣り堀、太鼓制作、他。蒲江竹野浦神楽保存会を立ち上げて、39年。子ども神楽を育成。平成15年、子ども達を連れてドイツへ公演に。17年、東京、明治大学へ。18年中国へ。マリソカルチャーで、今年第10回「万宝かぐら祭り」を開催予定。

・39年前にできた神楽保存会

昭和50年のことでしたが、地元河内(ごうち)のお祭りのお世話をする役割が私どもの所15軒に回ってきました。

当時、子どもの神楽が一神楽だけ、それもほんの25分くらい。西野浦、蒲江からおじいさんに来ていただいていたんですけど、年取ってもう来れないということになりました。もう舞ってくれる人がいない。寂しい祭りになると、皆が沈んでおりました。

宮司さんも総代さんも引き揚げて残った人たちが寂しいな、どうするかという中、酔いも回っておりましたが、屋形島から養子に来ていた人が「俺子どもの時に習ったんじゃけどな」と言うことで、そんならやってみいで、舞いかかったんですけど、本番では舞ったことはない。あっちに行っっては首をひねり、こっちに来ては首をひねるから、皆さんがそれは首をひねる舞いかという始末。皆酔っとりますから、一人が出て行って、まねをするんですけど、腰は曲がるとる、手はぶらぶら、どじょうすくいじゃあと。そしたら、一人が茶碗を叩き出した。賑やかに盛り上がり、帰ろうとした所、続きをまた明日の晩もやろうということに。翌晩またですが、帰る段になって、明日は神社に集まらんかということに。それからです、本格的な練習が始まりました。

私が一番若くて、40歳。年は取っちゃう、体は固い、小回りは利かん、習う人がそれぞれ皆舞いが違う。綱切り、柴引き、長刀(なぎなた)、教える宮司の先生(中浜謙逸先生)も大変。先生が、太鼓も叩かにならん。先生も音をあげました。

楠本の阿部さんに太鼓を習おうということで、お

願いしたら、気持ちよう来てくれました。それから続いて毎晩のように舞いましたね。

丸2ヶ月、11月の霜月祭りに全員が舞えるようになりました。経緯はそういうことで、保存会のスタートとなりました。

・出稼ぎで男衆が少ない時代でした

それから河内の祭りはいつも神楽がある賑やかなものになり、今までお世話になった楠本とかにも、恩返しに舞いに、何年も行きました。

5、6年が経ちましたら、うちの神楽舞いが皆年を取ってしましまして、もうやめると言いだしました。そしてとうとうやめてしまわれて、私ひとりになりました。

ひとりぼっちのお祭りもあったんですけど、もう誰もいなくて、頑張っって舞ったんですけど。当時は男衆は皆さん出稼ぎが多く、残されているのは、大工さんとか農協、漁協の職員さんとか、郵便局の人とか。その人たちがみな舞ってくれるかというところはいかないんですね。やっぱり好き好かんと言いますか、宗教の関係もあって、舞わないんですね。

頼んで、大工さん2人、自動車の修理屋さん、2人が3人、4人となりまして、まあ多いときは8人にまでなりました。

1人で、子どもを12人教えるということもありました。子どもの舞いはいいんですが、大人の舞いがないと力強さがいいんですね。綱切りもできんし長刀もできんし。それが、まあ大人もそろい、子どももそろって祭りができるようになりました。

・あの子のようにせーよとほめる指導

延岡の城山神楽には、招待されて行くようになり14年間続いております。最初に行った時に撮ったうちの会の増野るなちゃんの太鼓が素晴らしいということで、延岡の11団体の神楽座の人たちがビデオを回し見したそうです。

私の所に訪ねて来まして、「あんたん所はどんな教え方をしちゃうんじゃろうか」と聞かれました。

「私が舞って、真似させて舞わせて、刀の振り方はこの子がうまい、ここの所はあの子がうまい。あの子のようにせーよと、部分部分をそこがうまい子をほめて、その子の真似をするようにと、いい所をほめて教える仕方をしている」と話しました。

自分の舞う通一りにせんといけんという厳しい教え方じゃあない。なるほどそれがいいなあというように帰ってもらいました。

延岡も一生懸命やるんですけど、子どもにきつく徹底的にやるもんじゃから、親御さんと仲が悪くなっていたんですね。

それからですが、延岡の今は8団体くらいが女の子も入れてやっております。

子どもの指導というものが大変難しいです。自分のやり方を押しつけようとするのは無理ですね。

やはり子どもでも自分よりうまい舞いをする者がおります、箇所箇所ですね。子どもに教えさせるのが一番楽で、子どもは子ども同士で、切磋琢磨するんですね。

マリソカルチャーの「万宝かぐら祭り」は、延岡の応援があってできたんですけども、向こうの会長さんが「感謝の夕べ」ということで銘打って行くからせんかということのできたんです。今年で10回目を迎えます。

・「祭り」の復活

うちの方では御輿を出してする大きな祭りが無かったんです。それでも獅子舞とか笛、太鼓は忘れかけておりました。それを復活して、今は御輿を出す大きな祭りができるようになりました。

年輩の人から笛を習い、獅子の舞いを習い、今は5年置きにはやるようにずっと計画しております。

又、獅子舞と恵比寿舞いは毎年、元日にはカルチャーセンターの10時を皮切りに、網方の親方さん達の所13軒くらいを回るようになっております。

毎年、欠かさず頑張っってやっております。

・ドイツ公演

平成15年9月に1週間、ドイツに公演に行きました。そこで皆さんが観光に行って、私ども10人が舞台造りで残ったんです。舞台造りをしてお昼になったから、食堂に行ったんですね。食堂に行ったらメニューが出たけれども、よう読まんから困って。

ビールだけは、何とかビールと言ったら出てきました。ビールだけで、ひもじい目を見たんです。

ホテルに帰って食べたんですけど、まあ情けないってありませんでした。

・モッコちゃん、ドイツから来る

通訳のモッコちゃんのお宅でごちそうになりました。モッコちゃんは、大学生。そのモッコちゃんがこの河内まで来てくれました。

カルチャーセンターで、丁度伊勢エビが脱皮する所を見せたり、伊勢エビを30匹上げて刺身を食べさせたり、うちにある刀を抜いて記念写真を撮ったり、まあ海辺の休暇を喜んでもらえました。

・中国にも行きました

「雑伎団」が来た時に、交流を深めてそのお返しに行ったんですけど、行く前に聞いていたのは、向こうの言い値の3分の1で買うようにとということでした。私はお茶の急須と石をくりぬいたものを買ったんですが、向こうが1万円、5千円と言うて交渉していたら、バスに乗る時間が来て、「バスに乗るよ」と言ったら「あんたの言い値でいいですよ」となり、本当の話じゃあとびっくりしました。

一番うれしいのは、私たちのような小さな文化が大きな世界に発信したということです。このことは誇りに思いますし、私の幸せ、喜びであります。

・太鼓作り

神楽を舞っているとどうしても、太鼓を身近で打つもんですから、自分で太鼓を作ってみたいと一心に思っていたんですよ。

役場を定年で辞めたのをきっかけに太鼓作りの人を紹介され、訪ねて行ったら「本当に作るかえ？」と何度も聞きます。今まで君の他に5人が太鼓作りに来たけど、最後まで続いた人間がひとりもおらんのじゃということでした。

延岡に1ヶ月通って、ついでに習った女房も、締太鼓という皮をロープで張る太鼓を覚えました。

最初は山に行き、倒してある楠の玉切りから始まりました。これまでに作った太鼓、かなりの数になります。

河内の盆踊りはさびれていましたが、私が太鼓を8つ貸し出して子どもに教えて、今は子どもが8人打ちます。そうすると、親たち身内の人もくるのもすごく盆踊りがはずみ出したですね。

今は、金具も作ります、銅版で。皮もなめします。雌牛の皮です。背骨を真ん中にして、一頭で一つ分取る。一つの太鼓に二頭要ります。

毛は、かどの丸い金具で、何十ぺん、何百ぺんと押して、押し抜くんです。それだけではダメです。今度は、干して、また水につけて、又干して、手間をかけます。

NHKの「小さな肖像」の二宮さんが、家の前に妙なものと後返って来た時は、丁度、皮を干していた時でした。

物作りが趣味で、凝り性です。硯(すずり)とか、こけしなども作ります。

・念ずれば花ひらく

有名な和太鼓グループ「夕オ」、これをどうかして蒲江の年寄り衆に見せたいと願っておりました。そこにまたとないチャンスが訪れました。宮崎が口蹄疫で公演ができない。それで、私が請け負い、蒲江公民館での公演が実現。長年の夢が、叶いました。会場に入る前は、太鼓ぐらいなあとっておった衆が、帰る時には、とても喜んで私に握手してくれたんです。いい物を蒲江の年寄り衆に聴かせたい！聴かせたい！いつも思い詰めておったんですね。

ドイツの空港で、大西ひろよしさんという人が名刺をくれたんですよ。その裏に「念ずれば花開く」という詩人坂村真民さんの言葉が書いてありました。

「太鼓を作りたい、作りたい。夕オを呼びたい、呼びたい」と思っていたのが、あの言葉の通りに、できたなあと、私自身が喜んでる所でございます。そんなことで、現在、頑張っっております。どうかよろしく願ひいたします。